

沙流川  
流域委員会  
ニュースレター  
第1号

第1回 沙流川流域委員会が  
平成17年12月7日に開催されました

日時：平成17年12月7日(水) 15:30～18:00

場所：平取町中央公民館

河川整備の基本となる方針(河川整備基本方針)に基づいて、今後20年から30年の具体的な河川整備の計画を示すのが「河川整備計画」です。北海道開発局は、沙流川の「河川整備基本方針」を平成11年に、「河川整備計画」を平成14年に策定しました。

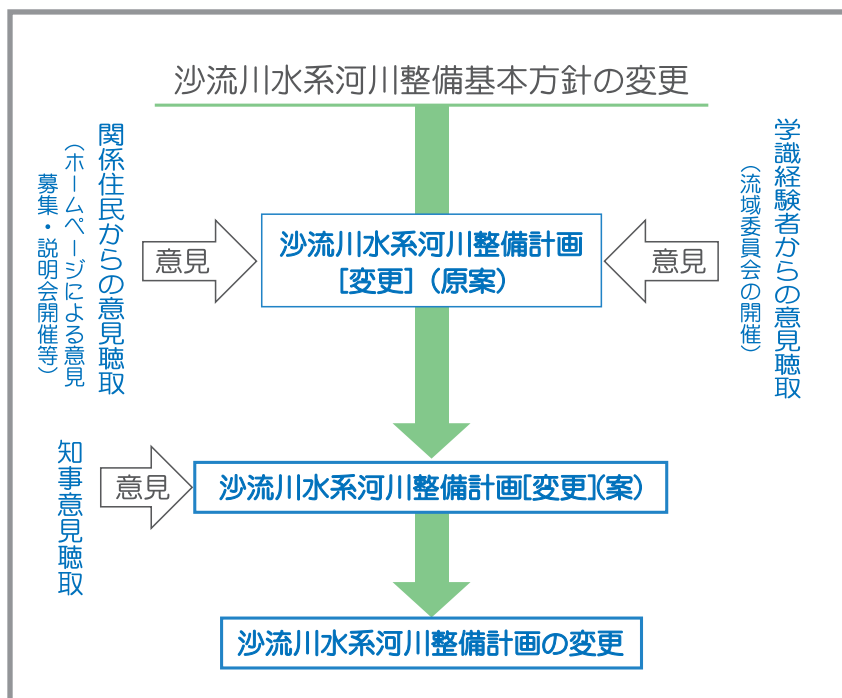
その後、観測史上最大の大雨であった平成15年8月の大洪水を受けて、これまでの「沙流川水系河川整備計画」を一部変更することになりました。

【主な議事内容】

- 1 委員の紹介
- 2 沙流川流域委員会設置要領
- 3 委員長の選出
- 4 沙流川流域委員会運営要領
- 5 沙流川水系河川整備計画の変更について



● 沙流川水系河川整備変更の手続き



## ●議事要旨

### 1. 委員長の選出

委員の互選により、藤間聡委員を委員長に選出。

### 2. 沙流川流域委員会運営要領

沙流川流域委員会運営要領を承認

### 3. 沙流川水系河川整備計画の変更について

- ・事務局より、「沙流川水系河川整備計画の変更概要」及び「沙流川水系河川整備計画の現行と、【変更】（原案）」について説明。
- ・委員の主な意見は以下のとおり。

#### (1) 主な意見

##### (近年の洪水について)

- ・沙流川流域では、昭和56年洪水も地域に大きな被害をもたらしたが、近年は、ほぼ2年に1回洪水が生じている。
- ・平成15年台風10号洪水を、間近で経験したが、極めておそろしい状況であった。
- ・平成15年台風10号洪水は、大潮の干潮時であったため、被害は小さかったが、満潮時であれば甚大な被害となったはずである。

##### (目標流量)

- ・目標流量を平成15年台風10号洪水時の実績流量である6,100m<sup>3</sup>/sに変更することは妥当である。

##### (治水対策)

- ・二風谷ダム及び平取ダムにより洪水を最大限調節し、それでも対処できない洪水流量を河道掘削により洪水流を安全に流す方針は妥当である。
- ・河道掘削残土量を減らすため、掘削残土を利用し、未完成の堤防を完成させるなどの方策もあるのではないかと。

##### (ダム)

- ・治水対策として平取ダムが必要であることを理解するが、平取ダム建設によって、アイヌ文化にとり重要な場所が水没することから、ダム建設にあたってはアイヌ文化継承への配慮を願う。
- ・平取ダム建設にあたっては、「アイヌ文化環境保全対策調査委員会」における検討結果を踏まえ、必要な対策に取り組んで欲しい。
- ・高水敷には、河川公園等が整備されており、中小の洪水時にも浸水被害が生じないように、中水敷掘削と合わせ、ダムの事前放流等の弾力的管理に取り組んで欲しい。

- ・平取ダム建設により早期に、流域住民が安全に暮せるようにすべきである。

##### (河道掘削)

- ・河道掘削の実施にあたって、シシャモが産卵できる河床とするべきである。
- ・シシャモの産卵床保全については、現状の断面を残すことから当面は大丈夫であると考えが、出水による河床変動の予測と対応策の検討が必要である。
- ・サケ、サクラマスについては、遡上する際の休息の場を設けるなど、掘削時に配慮すべきである。
- ・沙流川本川において、サケの産卵床も確認されており、河道掘削による影響を軽減する対策を実施すべきである。
- ・河岸の樹木は、魚類の隠れ家にもなっており、掘削にあたっては、場所に依じて配慮すべきである。
- ・掘削残土を農地嵩上げ等に利用する際には、遊水機能を有する土地が堤防整備等により減少している現状を考慮すべきである。

##### (河道内の樹木)

- ・河道内の樹木は、洪水時に支障となることから、適切な管理をすべきである。

##### (水質)

- ・沙流川の水は濁ってはいるが、清流日本一となるなど質的には良好である。河川の濁りの問題を含め、適切な河川管理を願いたい。

##### (アイヌ文化)

- ・「アイヌ文化環境保全対策調査委員会」の報告等を河川整備計画に反映願いたい。
- ・アイヌ文化を尊重した河川事業を推進して欲しい。

##### (流域の視点)

- ・平成15年台風10号洪水時には、洪水ばかりでなく、多量の流木や土砂の流出が海域まで生じた。平取ダム完成後も治山事業等を継続的に実施すべきである。
- ・洪水の原因の一つとして、森林の荒廃が考えられる。沙流川水系河川整備計画の範疇でないことは理解しているが、治山についても考えていくべきである。
- ・沙流川本川だけでなく、支川、森林、海域を含め関係機関と連携する流域の視点が重要である。

## ●「沙流川流域委員会」委員名簿

● 長南 史男	北海道大学教授(農業経済学)	◎ 藤間 聡	室蘭工業大学教授(河川工学)
● 梶川 博	ひだか漁業協同組合副組合長理事	● 中道 善光	平取町長
● 川奈野 惣七	北海道ウタリ協会平取支部長	● 西尾 正	日高町長
● 黒木 幹男	北海道大学大学院工学研究科助教授	● 松原 俊幸	沙流川サケ・マス文化研究会会長
● 郡司 啓	門別町長	● 眞山 紘	(社)北海道栽培漁業振興公社技術顧問
● 阪元 兵三	北海道林業協会顧問	● 渡辺 研一	平取町商工会工業部会幹事
● 辻井 達一	(財)北海道環境財団 理事長		

【●:第1回沙流川流域委員会出席委員】、「◎:委員長」、(五十音順、敬称略)

沙流川流域委員会事務局

あしたを創る北の知恵  
北海道開発局



北海道開発局 室蘭開発建設部 治水課

〒051-8524 室蘭市入江町1番地14 TEL0143-22-9171 FAX0143-22-9170  
URL <http://www.mr.hkd.mlit.go.jp/>

沙流川流域委員会の資料は、室蘭開発建設部のホームページでもご覧いただけます。